

三浦綾子作品

番号	タイトル	出版日	内容
1	裁きの家	1970.5.25	現代は家庭もまた裁き合う場であって、憩いの場でもなければ、許しあう場でもなくなっていると言える。
2	光あるうちに	1971.12.25	道ありき第三部 信仰入門編
3	愛すること 信ずること	1972.5.24	私たちの家の主人はキリストの父なる神であると。神は、曲りなりの歩みでもこれを許し導き愛と信の中においてくださるかである。
4	生きること 思うこと	1972.6.1	私の信仰雑話 生きるとは必ず、自分自身の姿を見つめることから始まると、私は考えている
5	新約聖書入門	1977.12.20	心の糧を求め人へ
6	千利休とその妻たち	1980.3.26	利休に(すぐれた男性に)、一目置かせ熱愛させた女性宗恩に興味を抱いたからである。
7	海嶺上下	1981.4.20	太平洋を越え、ヨーロッパに渡った三人の船乗り、のちに聖書を初めて和訳した音吉・久吉・岩吉が歩んだ苦難の人生
8	愛の鬼才	1983.10.20	西村久蔵の歩んだ道 私の見聞きした先生の姿を通して、「神の愛」を語りたかった
9	藍色の便箋	1983.12.1	この随筆を手紙の形式にしたのは、手紙が私の生活に密着しているからである。私のところには毎日たくさんの手紙がくる。
10	水なき雲	1983.5.25	現代人にとっての幸せとは 二つの家庭の確執を通して現代人の失った最も大切なものは何かをさぐる待望の話題作
11	旧約聖書入門	1984.12.20	光と愛を求めて
12	草のうた	1986.1.22	人格の形成には、よい環境が必要だといわれている。「よい環境とは、響き合う魂が周囲にあることである」と、ある人は言った。
13	雪のアルバム	1986.12.20	人間は根強い憎しみ悲しみを抱きつつも神を求める。そんな時、神はどのようにして人間を神の子としてくださるか。
14	聖書に見る人間の罪	1986.3.30	暗黒に光を求めて
15	嵐吹く時も	1986.8.31	この小説を書きながら、一人の人間の生き方が、どんなに周囲の人々を幸福にしたり、不幸にしたりするものかを、改めて思った。
16	ちいさな先生物語	1987.5.28	榎本保郎牧師のことば「私たちの生活にとって最も必要なものは神の国。神の国の招待に応えることを第一にして行きたい」
17	夕あり朝あり	1987.9.15	一生を終えてのち残るのは、我々が集めたものではなく、我々が与えたものである。ジェラール・シャンドリー
18	私の赤い手帳から	1988.1.1	忘れぬ言葉 私を強めてくれるこれらの言葉は、私にとって何物にも替え難い宝なのだ。
19	われ弱ければ	1989.12.20	矢嶋楯子伝 私を突き動かしたその一つに、楯子が校則を取り払ったということがあった
20	母	1992.3.10	第一に私の心をとらえたのは、多喜二の家庭があまりにも明るくあまりにも優しさに満ちていたことだった。
21	この病をも賜ものとして	1994.10.30	生きるということは、平凡な日常を切り捨てずに、深く大切に生きることであるとも思う。
22	小さな一歩から	1994.11.21	人生は孤島に似ている。私にとって聖書は、孤島における只一冊の本である。
23	難病日記	1995.10.10	一人一人の命は限りなく貴重であり、私の難病など取るに足りないものと思うが、苦難に遭っている人にいくらかでも慰めとなれば
24	妻と共に生きる	1995.10.10	(三浦光世著)
25	新しき鍵	1995.5.30	私の幸福論 激しき痛み忍び明かしてまどろむ妻何か寝言を言ひて笑ふも 光世
26	命ある限り	1996.4.30	いずれにしても人間は賞讃を得たいもの、そして移ろいやすい者、弱者、誰の前にも顔を上げ得ない者、孤独で淋しい者である
27	ひかりと愛といのち	1998.12.18	主治医が言うには「この病気は世界的に研究されて、その成果は大いに期待できます。もう少しの辛抱です」
28	言葉の花束	1998.6.5	三浦さんの真率な自己告白は、その言葉が・・・、現実には人生の岐路に悩む人たちの心に寄り添い、支え
29	明日をうたう	1999.12.25	命ある限り 1999年10月12日再び意識が戻ることなく77歳の生涯を終えた。
30	夕映えの旅人	2000.10.12	三浦綾子・光世 着ぶくれて吾が前を行く姿だにしみじみ愛し吾が妻なれば 光世
31	遺された言葉	2000.9.20	心からの尊敬と愛をこめて 世界一のわが夫であるあなたに十二冊目をお贈りします。1972.6.1
32	したきりすずめのクリスマス	2008.12.8	もっともっと子供たちによい童話を与えてやりたい。特に心に沁みとおる物語を。子供たちの魂は、はるかに柔らかく・・・